校友時報

昭和44年6月2日
編集人兼発行所
秋田県能代市追分町4番26号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 大番堂印刷所

予算大巾に減少

本年度予算承認す

開催が待たれていた生徒総会は去る五月十九日体育館にて開催された。昭和四十三年度の決算報告並びに昭和四十四年度予算審議と承認を中心に進められた。初めの決算報告は満場の挙手により承認され、すぐ四十四年度の予算審議に移った。まず職員の離任の際に生徒会から送られている餞別のことが議題に上った。この議題は前に生徒委員会でも討論されており一応〃廃止〃と決定していたものだった。しかし総会では廃止案に反対する意向が強く、多数の賛否両論の末、廃止案は否決され何らかの形で餞別を送ることに決定した。その他、二、三の質議応答があった後、緊急動議が出された。動議の内容は生徒の喫茶店立ち入りについてであったが、大部分の生徒の支持を得て満場一致で可決された。その際顧問の先生が初めて学校長に申請し、それが脚下された場合は、各クラスより一名づつ委員を出し、委員会を決成してから学校長に生徒の喫茶店立ち入りに就ての見解を求めることになった。その後すぐさま四十四年度予算について承認するか討論され満場の挙手により承認が決定した。

今年の収入は合計二百七十四万六千四百円で去年の二百九十八万円より多少減少している。これは今年度の新入生の減少と、昨年度の赤字が影響していると見られる。このため予算が減少したクラブが多く、体育、文化局を通じて十四ほどある。特に目立つのは、硬式野球部の一万三千七百六十円、ブラスバンドの五万八千円、排球部の七千二百円などである。数少ない増加の方は卓球部の六千七百八十円、柔道部の五千五百円などである。なお予算審議に先立って、YHC同好会と生花同好会のクラブ昇格について話し合われたが、YHC同好会のクラブ昇格は可決されたが、関心の薄いせいか生花同好会の方は否決された。

今年度の生徒総会も例年同様騒々しく会の進行が大いにさまたげられた。今後生徒一人、一人の生徒会をモットーに大いに生徒会を盛りあげてもらいたいものである。

44年度生徒会予算

項目		本年度	昨年度
前年度繰越金		146,745	247,886
会費		2,532,000	2,664,000
入会費		67,400	72,600
PTA補助等		300	0
合計		2,746,400	2,984,480
品目		本年度予算	昨年度予算
総務局		1,204,320	1,417,600
	企画部	400,000	496,600
	需要費等	804,320	921,000
文化局		474,585	531,056
	弁論部	9,000	7,166
	美術部	32,140	33,030
	音楽部	15,500	20,490
	写真部	13,735	16,850
	科学部	20.080	19,500
	書道部	15,200	22,010
	新聞部	121,900	103,000
	無線部	41,000	41,650
	ブラスバンド部	119,000	177,000
	文芸部	44,900	45.000
	演劇部	42,130	45,360
体育局		953,695	965,830
	陸上部	79,785	82,960
	剣道部	95,820	96,000
	排球部	85,800	93,000
	柔道部	58,500	53,000
	庭球部	77,800	77,000
	体操部	50,500	47,600
	スキー部	50,000	53,570
	卓球部	56,280	49,500
	籠球部	56,600	58,650
	硬式野球部	276,290	290,050
	歎式野球部	66,320	64,500
応援団		43,800	50,000
予備費		70,000	20,000
合計		2,746,400	2,984,486

部説

生徒会の停滞は だれの責任!?

「生徒会は幹部だけの生徒会ではない。生徒諸君の生徒会である事を強く認識してもらいたい」これは生徒会長の言葉である。ごく常識的な事とは思うが、現在本校において、この常識的な事と思われる生徒会への関心が、幹部等の努力にもかかわらず、低調の一途をたどるばかりである。

どうして能高生の大部分が生徒会に無関心なのか。本校が受験校であるということにも多少の原因はあろうが、やはり生徒ひとりひとりの主体性がたりないのではないだろうか。（能高生ばかりではないが）主体性がたりないから、生徒会への無関心を誘っているように思える。そしてこの無関心さが、非協力的な態度が、幹部の努力にもかかわらず、生徒会の沈滞状態をなお続けているのである。

先日ある生徒会幹部のひとりから、生徒会に関する切り抜き記事を見せてもらった。それは、本校のように生徒会の活動が停滞している学校の中で、ひとりの生徒が存在価値の薄い生徒会を生きた生徒会に造りあげようと努力している事が書かれてあった。この生徒のいる学校は、生徒会とは名ばかりで体育祭や文化祭の時など、プログラム作成からステージ設置まで、すべて教師の指示に従うという。生徒の無関心さが、本校をしのぐほどの学校である。彼は会長に立候補したのは、全校に広がる無気力感を打破しようという理由からだった。最初彼は、生徒の関心を盛り上げようとHRで討論させ、それを月一回の生徒集会で話し合わせるように、規則の改正を計ったが、HRも盛りあがらず、代議員会も定員がそろわず、しばしば流会となる事があった。それに対して彼は、招請状を出し出欠を取る事にした結果、出席率が高まったが、ひとたび出欠を取るのをやめると出席率が急減するのである。そしてこの苦い経験から、彼は他校の生徒会の実情を知りたくなり顧問の先生に相談したが、これはいろいろな事情で実行することはできなかった。そして彼の三年間の努力は徒労に終わってしまったのだった。

我々の生徒会は今、我々自身の手で破壊しようとしている。その原因のひとつに役員選挙が上げられる。先日も生徒総会正副議長及び会計監査委員の信任投票が行なわれた。役員になった人には申し訳けないが、果して投票した人の中で何人が「この人は適切だ」、「あの人はこの役に適切じゃないんじゃない」と、真剣に考え投票したろうか。おそらく生徒会の役員を実際に経験した人位であろう。ひどいのになると、○×を交互につけてみたり、×ばかり書いておもしろがっている人もいる。他に役員改正時の立候補者についてである。昨年度の三月に行なわれた生徒会長及び生徒副会長の選挙は、どちらも立候補者一名づつというものたりなさであった。少なくとも、一つの議席を争うのに三名ぐらいの立候補者は出せないものだろうか。

生徒会役員は、低調な生徒会活動を盛り上げようと懸命である。会長をはじめ役員等は、HRの重要性を認識し、いかにHRを盛りあげたらいいのか。また、HR委員と総務局の結びつきが薄い現在、どのような手段で結びつきを深めたらいいのか。その他生徒を盛り上げるためにいろいろな問題と取りくんでいる。我々はもっと生徒会の意義、必要性というものをよく理解し、そしてもっと生徒自身が、「生徒会は、我々ひとりひとりのものなのだ。我々の意見を形に表わせる唯一の機関なのだ」と、自覚してみずから自主的に協力するような気持ちにならなければいけないと思う。生徒会役員も全校生徒にもっと生徒会というものをPRしなければならない。生徒会は我々の最高の議決機関。そのことを我々一人一人が、心に抱いて明日の能高を築こう。

議長には三浦君

去る五月六日、生徒総会議長及び副議長、会計監査委員の信任投票が行なわれた。その結果市川生徒会長、石川副会長以下総務局の推薦した立候補者はすべて信任なった。この選挙でも、毎回のことではあるが、生徒の選挙に対する無関心さが感じられ立候補者の紹介の際体育館に集まった生徒は、わずかで、また集ったとしても騒々しく、会長の紹介することばに耳を傾けている者も少なかったようだ。なお三浦君は、昨年度前期副会長を務め、総務局における信頼も強かった。投票結果は次の通り。

（投票総数　一、〇四三票）

生徒総会議長

三浦　隆	五四六票

副議長

後藤和夫	六〇八票

会計監査委員

七尾純一	五九四票
熊谷正志	六五五票
神馬恒昭	六二九票

時評

生命の尊重

浅野洋一

昨今若い生命をむげにおとす者が多い。生命の尊さを知らぬ者はないが往々それと反対な事象が毎日新聞紙上に載せられる。そんな時悲しみ、或いはその行動の軽率さに啞然としたり時には、むしろ憤りを放ったりする。

春は花、夏は海、秋は紅葉、冬は雪山とレジャーは続く。レジャーは生きる者の共通の欲求として、その価値も理解できるが、これも悲惨な結果がつきまとうことが多い。社会がどうの、施設がどうのとその不備を突いてもはじまらない。しかし、なにもやらぬ消極的生活を望むのではない。

人生には不可抗力とか宿命とか天命とかいうものがあるようだが、それとてもすべて避けられない運命ではあるまい。運命は何等かの道を通って作られていることに気づく場合もある。いわゆる運命は自己には無意義ながら積み重ねられた所産が、必然性を持っていると考えられないでもない。だから行動を起こす前に一歩後退して静思する余裕を持てば絶対安全の保証はないにしても、ある程度の危機から逃れる可能性があると思う。ましてや、校内生活における交友関係からくるトラブルが、あたら対者の生命をおびやかした、サレジオ高校生の不祥事件など、全く言語同断である。

己のためにも、対者のためにも、否、社会のためにも生命こそ、尊重すべき要件である。希望に燃える前途有為の若き諸君のために、何等かの糧になれば幸いである。

（音楽科）

論点

▼中間考査も終わり、生徒の額にも安堵の色が感じられる今日この頃である。我校において、テストは日常茶番事（変な表現であるが）とでも言えるほどである。〇〇大模試、〇△実力テスト……とテストは続く。そのテストの中には、明るさもあれば暗さもあり、また夢もあれば失望もある。そして、若い青春のエネルギーで、それに突進していく我々。しかしそれが本当の青春だろうか。それが真の若さの姿だろうか。▼ところで、我が能代高校は普通高校である。がゆえに、最大の目標として、まず、大学入試という壁が行く手に待ちうけている。そうすれば当然、テストは多くなり、我々はテストの中に青春を見い出さざるを得えない。▼しかし、テストによって、考えることを忘れさってしまってはいけない。考えることあっての人間であり、考えることなしには、人間の存在は考えられない。昨今、考えることが減ってきているように思われる。視覚、聴覚に主体をおいたマスコミは、我々から読んで考えるということを奪いかねない。それと共に話し合うということも、次第に減ってきているように思われる。このようなことが、ひいては、人間性の喪失を生みかねない。▼ところで、先日行なわれた生徒総会は、例のように乱れたが、驚いたことはあの会場で、テスト勉強していた者がいたことである。彼もまた、大学入試中心の（中心とせざるを得ない）現在の高校教育体制の犠牲者なのか。彼にとって若さとは何であろうか青春とは……。▼日一日、初夏の色合いを帯びてきた今日この頃、美しい花だけをながめているだけではいけない。我々は、自分の自覚を持って、若い巨大な青春のエネルギーを自分自身の中に見い出し、自己の存在を知らなければならない。自覚あっての行動であれ。自覚あっての志学であれ。

学生のみせ
キムラヤ
はたまち　2－5535

「遠くの物がかすんで見えない!!
そんな時は当店へ御相談を
カモヤ
畠町　T 2－3740

●カメラで……
……これからの……
……旅行シーズンを……
有意義に…
三羊堂
畠町　T 2－4946

※高屋の学帽は
あなたを待っています
高屋
大手町（渟一小前）T 2－4988

≡サービス・モットー≡
金物なら何でも
小杉山金物店
元町　T 2－4178

◎スポーツ用品……
各種取り揃えて
……おります
能代スポーツ
柳町　T 2－4613

▼蚊、はえ、ゴキブリに▲
◎効力抜群
当店の殺虫剤
みどり薬局
畠町　T 2－3531